

令和5年度（2023年度）第1回みなみ野中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和5年（2023年）5月20日（土） 9：30～12：00
場所	みなみ野小学校2階 家庭科室
出席者	参加者：荒井、大淵、大山、野牧 見学者：斉藤 第一層生活支援コーディネーター：今泉 子ども家庭支援センター：小池 地域子ども家庭支援センターみなみ野：安藤 青少年若者課：小俣 児童館：北野児童館 関戸 浅川児童館 永井 北野地域事務所長：水越 市民課：野田 経営計画課地域づくり担当：伊東、三井、興梠、橋本、田中、山北 エックス都市研究所：田中、橋爪、伊藤、堀岡
配布資料	第1回みなみ野中学校区地域づくり推進会議資料 資料1-1 中間とりまとめ（修正案） 資料1-2 R4年度第6回の主な意見と中間とりまとめの修正・対応一覧 資料2 長房中学校区地域づくり推進体制及びアクションプラン概要 資料3 ワークショップアイデアシート 資料4 R5年度の地域づくり推進事業について 資料5 子ども家庭部の地域再編と保健福祉センターと子ども家庭支援センターの一体的な支援体制について 資料6 八王子未来デザイン2040に基づく地域づくりの推進について 資料7 アクションプランを考えようワークシート記載例 資料8 ワークショップ検討資料 令和4年度（2022年度）第6回みなみ野中学校区地域づくり推進会議議事概要（案）

1 開会

経営計画課地域づくり担当より挨拶、配布資料の確認など。

2 市からのお知らせ

資料5をもとに、子ども家庭支援センターから「子ども家庭部の地域再編と保健福祉センターと子ども家庭支援センターの一体的な支援体制」について説明。

（説明内容）

- ・令和4年度（2022年度）の児童福祉法の改正や、令和5年（2023年）4月のこども家庭庁創設などに伴い、妊産婦や子育て世代などへの一体的な相談支援をする「こども家庭センター」の設置が努力義務化された。
- ・市内には大横、東浅川、南大沢の3か所に保健福祉センターがあり、妊娠期から就学前までの発育・発達支援等の母子保健事業を行っている。子ども家庭支援センターは、石川、元八王子、館、みなみ野、南大沢の5か所ある。今年度から各子ども家庭支援センターは保健福祉センター内に執務室を移設し東浅川、大横、南大沢の3か所になる。
- ・子ども家庭支援センターと保健福祉センターの双方が連携を取りながら、より一層予防を強化し切れ目のない

支援を行いたい。新たな体制で妊娠期からの虐待の未然防止を行いたいと考えている。

- ・施設の整備が整い次第の移設になるが、みなみ野の子ども家庭支援センターは南大沢保健福祉センターに仮移設する予定である。
- ・相談はアウトリーチで受けることが多い。みなみ野の地域子ども家庭支援センターについては、サテライトの相談場所としてスペースは残す予定。
- ・現在、子育てひろばは身近な相談場所として機能している。相談支援をより強化するため対応スキルを向上し、引き続き子育てひろばと連携を取りながら支援を強化したい。

(質疑応答)

- ・みなみ野の子ども家庭支援センターの空いた事務室には、今まで在籍していた小さい子向けの職員は入るのか。
⇒子育てひろば運営の職員はそのまま残る。子ども家庭支援センターのケースワーカーだけが南大沢に移動する。
- ⇒みなみ野の機能を縮小するというのではなく、保健福祉センターと子ども家庭センターとが一体的に支援していく体制となり、多職種で連携しながら対応できると考えている。(市)
- ・子ども家庭支援センターみなみ野の拠点としての機能は増減するのか。
⇒施設利用という意味では、機能は変わらない。幼児や小さな子どもが遊ぶ子育て広場はそのまま残る。子ども家庭支援センターみなみ野は、子育て広場、事務室、相談室で構成される。(市)

3 八王子未来デザイン 2040 に基づく地域づくりの推進について

資料 6 をもとに、経営計画課地域づくり担当より「八王子未来デザイン 2040 に基づく地域づくりの推進について」説明。

(説明内容)

- ・市の人口は、市制施行時は約 4 万 2 千人だったが、現在は約 58 万人。2060 年には約 49 万人に減少する見込み。人口減少・人口構造の変化だけでなく、社会情勢の変化に伴い、今後様々な課題が出てくると考えられる。
- ・市の財政についても人口推計の結果から歳入・歳出を予測すれば、収支が赤字になる予想。
- ・「八王子未来デザイン 2040」では、「八王子ビジョン 2022」の柱を継承しつつ、未来を拓く原動力として「地域自治」「共創」を掲げている。
- ・多様化する地域のライフスタイルや、複雑に絡み合う課題を踏まえ、従前からご協力いただいている「地域づくり」を通じて「地域自治」を推進していきたいと考えている。市役所の仕組みや体制を整理し、2030 年ごろまでに市内の全中学校区に推進会議を設置していく予定としている。
- ・地域でやりたいこととやらなければならないことがあると考えられる。市は公共サービスを担保しながら地域での取組が進められるよう対応していきたい。
- ・地域づくり推進計画策定後はアクションプランを実行しつつ、地域自治を推進するにはどのようなことが必要か、推進会議を設置した中学校区で検討していきたい。また、推進会議を通じて行政的な課題を共有し、地域の意見を聞く場としていきたいと考えている
- ・現在、モデル地区である長房と川口の推進会議では、地域自治モデルの検討を始めており、来年度以降、同じワークになるかは状況を踏まえて考えるが、みなみ野でも考え方の共有から進め、地域自治を推進するための知見を得たいと考えている。

(質疑応答)

- ・なし

4 議題「中間とりまとめ（修正案）の確認」

中間とりまとめの修正案をもとに、今回の検討内容について確認した。主な修正事項などは、以下のとおり。

- ・将来ビジョンは、『集まって、つながって風の生まれるまち』を、『集まり、つながり、風の生まれるまち』と変更した方がアクティブでよいと思う。
- ・「私の居場所づくり」「みなみ野のみどころツーリズム」は内容が重なるところがあり、一つにまとめた方が良いのでは。

⇒今回は参加人数も少なく中間とりまとめの段階なので、ワークショップでの意見を踏まえ、第2回以降の推進会議で改めて取組について検討してはどうか。中間とりまとめとしては、修正案にある「私の居場所づくり」「みなみ野のみどころツーリズム」「発信拠点みなみ野」の3つで決定して良いか（エックス都市研究所）

⇒異議なし。

5 議題「アクションプランの検討」

中間とりまとめをもとに、アクションプランについて検討した。今回は参加人数が少なかったため、1グループで検討を行った。検討結果は、以下のとおり。

<検討結果>

(1) アクションプランの概要について

- ・議論の進め方については、参加者が意見を述べやすいように進めていく。個々のプロジェクトを中心としたグループに分けることが考えられる。
- ・あまり大きなイベントを考えるのではなく、住民が中心になって小さな企画から始めることも考えられる。市内をよく歩いている高齢者であれば、みなみ野らしい活動や魅力が引き出されるかもしれない。
- ・田植え等の地域活動や、公園の花壇づくりなど、日常的な活動がイベントになる場合もある。通年に行っていることを地域資源として活用し、イベントを作っていきたい。
- ・既存のイベント、取り組みを活用し、小さなこと、今できることから着手していきたい。
- ・進め方の一つとして、イベントの検討からのアプローチも考えられる。（エックス都市研究所）

(2) <居場所><ツーリズム>について

- ・「居場所」と「ツーリズム」の分類ではなく、「居場所づくり」の中で、日常的なものとイベント的なものに分かれると思う。日常的な居場所づくりはウォーキングコース的なもので、イベント的な居場所づくりはいちよう祭りのように年一回のお祭りのようなものをイメージしている。
- ・「イベント的な居場所づくり」は、イベントとしてみんなが集まれるものであり、いちよう祭りを縮小したみなみ野版をイメージしていたため、ツーリズムという言葉では趣旨を満たさない。いちよう祭りでは関所を回るが、もしみなみ野で実行する際には、みなみ野の名所を選定してもらえると良いと思う。

※いちよう祭りとは、毎秋土日の二日間、市内にある甲州街道の銀杏並木約4kmで開催されるイベントである。関所オリエンテーリング、パレード、スタンプラリー、物産展などが実施される。市民の交流の場として親しまれている市民手づくりの祭り。（市のHP参照。事務局注）

- ・外来者にみなみ野の魅力を知ってもらえるイベントにしたい。イベントには魅力発信の役割も含まれている。
- ・住民も魅力を再発見できる「居場所」があるといい。
- ・川口だとマルシェを実施している。音楽イベントをやりたいと言っていた人もいる。各校の吹奏楽部をまわっていくイベントもあるかもしれない。

⇒大淵氏が放課後子ども教室をやっているため連携をとることは可能である。

- ・イベント立ち上げ後、イベントの内容を詰める中で、「歩くイベント」の価値が認められた場合、ツーリズムの導入を検討できると思う。

⇒「居場所づくり」には「ツーリズム」も含めて検討することとし、「①イベント的な居場所づくり」と「②日常

的居場所づくり」を一緒にして考えていく。検討の分け方については、「①イベント的居場所づくり」「②日常的居場所づくり」「③日常的ウォークアブル」「④イベントと合わせたウォークアブル」の4つに大別できる。

- ・プロジェクトはアクションプランに具体的に描ける。(エックス都市研究所)
- ・イベントごとに主役が変わる。推進会議主体ではなく、主役はみなみ野の住民としたい。
- ・取組の候補については、プロジェクト化しても問題はない。「居場所ツーリズム」なども考えられる。本日の欠席者が考えるプロジェクトも含め、まとめる際には、他のプロジェクトとの関連を含めて明快にしたほうがよい。(市)

⇒実質的な検討体制としては、交流(「①イベント的居場所づくり」「②日常的居場所づくり」とツーリズム(「③日常的ウォークアブル」「④イベントと合わせたウォークアブル」)の2つに分け、情報発信や若者の参加も含めたプロジェクトとして検討することも考えられる。

(3) <発信拠点>について

- ・情報発信の場(プラットフォーム)は、FacebookやInstagramなどのSNS発信を手伝ってくれるメンバー(大学生2名など)がそろい、プレ活動ができる段階である。女性はいない。専用の情報発信サイトを市民で勝手に立ち上げていいのかわからない。センスや発信するスピード感も必要だと思う。

⇒情報発信については市の予算がある。市民活動支援センターが行っている「はちコミねっと」への掲載を準備している。(市)

⇒そのサイトだけで積極的な発信ができるか懸念がある。

- ・八王子市制100周年で自然資源を掘り起こしたようなものの発信も含め、HPを作成し、ブログやSNSを紐づけることも考えられる。HPより小さな気づきや視点の違いなどを発信できるInstagramのほうがいいかもしれない。たたき台がないと動きにくいので、市民側でまず作成を始めたい。

⇒プレ活動としてまずローカル公開してみてもどうか。(エックス都市研究所)

(まとめ)

- ・「日常的/イベント的居場所づくり」と「発信拠点」の二つの大枠で、具体のプロジェクトは先行的に検討を進めていく。その後、各参加者が検討・活動したい取組候補のグループを事前に考えてもらう。中間とりまとめを念頭に置きながら、エックス都市研究所がたたき台を作成する。情報発信プラットフォームについては市と参加者がプレ活動を始める。

6 議題「ワークショップの検討」

会議資料をもとに、ワークショップの進め方について確認した。結果は、以下のとおり。

<検討結果>

(1) ワークショップの方法

- ・ワークショップの時間については、前段で取組内容の紹介等をするので、話合いの時間は50分ほどになる。席替えやアイスブレイクは難しいため、事前に属性でグループを分けておくことで話しやすい環境を作る。子どもたちが意見を出しにくそうな場合は大人が引き出す。

⇒定員は30名(最大40名ほど)。参加者は事前申込制(6月20日締切)であり、事前の振り分けが可能である。(市)

- ・参加者が意見を言いやすい人数として、一テーブル6名ほどが望ましい。
- ・中間まとめをベースに、紙面上に付箋を使い、意見を書き込んでもらう形式とする。別途、各テーブルに白紙を用意する。中間とりまとめは手持ち資料として全員に配布する。
- ・高校生、大学生は、中間とりまとめの資料で問題なく理解できると思う。小中学生は、地域カルテにある地図等を利用して意見交換をしたほうがわかりやすいと思う。

- ・推進会議メンバーと参加者では言葉の理解やニュアンスが異なる場合も想定されるため、その都度、相違や追加の有無を確認した方がよい。全体的に議論ができるとうい。
 - ・小中学生の保護者がワークショップに参加する場合、参加者の小中学生とは違うテーブルに分ける。
 - ・大学生には、生まれも育ちも八王子の人と、大学の期間だけ八王子に通学または在住の大学生がいる。
 - ・ワークショップの最後では、参加者が行っている活動の PR や、参加者の個人活動で困っていることなどの情報交換もできればと考えている。話しきれなかった部分はアンケートを活用する。(市)
- ⇒参加者アンケートには、推進会議への参加希望を問う設問もぜひ入れてほしい。

(2) 出席者の役割分担

- ・全体進行：荒井氏
- ・今までの経過、中間とりまとめの発表：野牧氏
- ・ファシリテーター候補：本日参加者の4人+平野氏、橋山氏他を推薦。
- ・板書係：ファシリテーター以外のメンバーがみんなですサポートする。
- ・全体進行については、今回は荒井氏が担当するが今後はほかの人も担えるとよい。

(3) 周知について

- ・市の広報(6月1日発行)を活用することを予定している。
 - ・小中学生(保護者と児童)に対して、市から学校を通じて情報を流せる。市から高校には情報は流せない。片倉高校は可能かもしれないが、高校は地元ネイティブの生徒だけではないため、保護者からアクセスしたほうがいい。
 - ・高校生、大学生については、大淵さんから、ご子息に参加をお願いすることもできる。
 - ・既存サークルへの呼びかけは、欠席しているメンバーも多いので、確認が難しい。
 - ・対応していただけるスーパーの掲示板や、町会に広報依頼することも考えられる。
 - ・主催は市であり、記載の仕方は市で検討する。問い合わせ先は市が入る。あやしくないとわかるよう市が準備する。
 - ・大学生はアルバイトのシフト提出などがあると思われるため、チラシは早めに作ってほしい。
- ⇒6月1日をめぐり市から各参加者に必要枚数のチラシを配布する。それを掲示板や知り合いに広報してもらいたい。チラシはエックス都市研究所が作成する。

(4) ワークショップの開催場所

- ・会場は、由井市民センターを予定している。片倉駅の近くである。
- ・高校生や大学生の交通手段を考えると、車に乗せてもらう必要などがあり、若い人が来場しにくいいため、駅近などアクセスのよさが重要だと思う。自転車利用をお願いする場合、暑さが心配である。
- ・みなみ野分館は駐車場が利用不可である。空調や駐車場の有無も検討事項になる。

(5) 情報共有方法

- ・今後の調整のため、推進会議のメンバーのメールアドレスの共有をしたほうがよい。
- ⇒市が推進会議のメンバーに確認後、共有する。
- ・メール利用が不可の方々には、市が郵送する。(市)

7 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

参加者の荒井氏から、みなみ野自然塾主催の「ホタルを見る会」の案内があった。開催日時は6月17日20時からで、参加は申込制である。去年は250頭出現した。同日に自然に関する他のワークショップも行っている。例年では150名程度が参加している。荒井氏が詳細を市に共有するため、興味がある人は市か荒井氏に直接問い合わせる。

8 閉会

ワークショップの日程等の確認を行った。

・ワークショップ：令和5年（2023年）7月8日（土）10時～12時（事務局とファシリテーターは9時に現地集合する。）

以上

2023年（現在）

魅力

- ・災害リスクが比較的低い地域。
- ・良好な住環境のある戸建住宅。
- ・“五山五丘三溪一流”構想の豊かな公園緑地等（みなみ野の丘公園、栃谷戸公園など）。
- ・身近な自然、**里山環境**、兵衛川の桜並木、四季の花の彩。
- ・整った都市基盤。安心感のある広い歩道。
- ・商業施設、教育施設等の公共施設が立地し、利便性が高い。
- ・隣接する地域に、東京工科大学ほか、業務、企業の研究所等が立地。

課題

- ・みなみ野中学校区は、市内のニュータウンの中では比較的新しいまちであり、将来の高齢化や人口減少を念頭におきつつ、次のようなまちづくりの課題があります。

(ア) コミュニティの醸成

- ・町会の加入率が下がるなど、コミュニティが希薄になるおそれ。
- ・災害時など、地域の情報共有、助け合いのためには、普段から、コミュニティを醸成していく必要がある。
- ・住民それぞれの年代や立場、まちづくりへの考え方を尊重しつつ、住民相互につながる機会や場、仕組が必要。

(イ) 地域を引き継ぐまちづくりの担い手の確保

- ・将来の高齢化、さらには人口減少を見据え、若者と世代交代をする仕組が必要。
- ・大学、地元企業の立地がある一方で、地域とのつながりが希薄。大学や地元企業との連携を深めつつ、まちづくりの担い手の確保が必要。
- ・みなみ野へ転入する人がいる一方、転出する若者が多いため、将来、戻って来たいまちにすることが必要。

(ウ) 地域資源の有効活用

- ・地域の魅力を維持し、高めていくためには、地域を取り巻く豊かな自然環境、公共施設や商業施設、大学・企業立地など、地域資源のさらなる有効活用が必要。

2040年に、**り、** ※取組は、2**り、** 27年の5か年で実施

将来ビジョン

集まって、つながって風の生まれるまち ～人、自然を豊かに愉しむ 八王子みなみ野～

アクションプランの柱

①みんなが集える場をつくる

- ・誰でも安心して、気軽に集える居場所づくりに取り組みます。
- ・地域の居場所を発掘し、共有しながら、ふれあい、子育て、健康づくり、習いごとなど、多彩な居場所をつくり出します。

②みんなが楽しくつながる機会をつくる

- ・誰もが楽しめ、仲良しになれる機会づくりに取り組みます。
- ・豊かな地域資源を活かして取り組むことで、みなみ野を知ってもらう機会にもなります。

③地域の魅力を広く発信・共有する

- ・みんなの集いの場、つながる機会づくりを通じ、地域の魅力を広く発信・共有していきます。
- ・「**口コミ**」の力を活かせる、**情報発信**に取り組みます。
- ・アピール力の強いプロジェクトにチャレンジします。

④若者の力で、次代につなぐ

- ・積極的に、子どもや大学生などの若者に参加してもらえるまちづくりに取り組みます。
- ・参加を通じて、地域の魅力、活動を次の世代につなぐ人が育つ、好循環まちづくりを目指します。

取組の候補

○私の居場所づくり

- ・住民が思い思いに過ごせる、多世代の憩いの場づくり。
- ・カフェ、コミュニティビジネス、子どもの居場所など**日常的な憩い**をはじめ、お披露目会（学校の部活、吹奏楽）、**駅前のお祭り**など、“**選べる**”憩い。
- ・公共施設や公園、店先・個人宅など、まちの様々なスペースの活用。居場所の発掘・シェアとセットでの取組み。**借りやすい、貸しやすい環境づくり**。
- ・地元行事の充実（内容、参加者）など、既存活動を有効活用。
- ・居場所のネットワーク化。

○みなみ野のみどころツーリズム

- ・みなみ野見どころをめぐる散策ツアーの企画・運営。
- ・いろいろなテーマに応じたモデルコース・マップづくり。
- ・自然観察、写真コンテスト、俳句大会、農とのふれあい、健康、ダイエットなど、様々な学び・体験付。
- ・スペシャリストを交えた、地域の魅力発信の機会にもなる。
- ・**コース・マップを充実**する新たなみどころの発掘・共有、さらには、つくることにもチャレンジ。

○集え、若者

- ・地域活動への若者参加の促進。
- ・若者－地域が win-win になるための仕掛け、仕組みづくり。
- ・各アクションプランで実装。
- ・**小中学校の活動との連携**や、東京工科大学、地元企業との連携。

※「アクションプランの検討」に関する書き込み

○発信拠点 みなみ野

- ・さまざまな地域情報の集約化、発信のための**ネット上のプラットフォーム（土台）**づくり。
- ・モデルコース・マップの発信、ツーリズム告知や、居場所のシェア、居場所イベントのPR、**地域の人材発掘やマッチング**などに活用。
- ・ホームページ、SNS、メタバースなど、いま時のツールの活用。

⇒始動

はちこみ
ねっと

センス良く

プレ活動
作ってみる

検討の視点

共通テーマ

カーボンニュートラル

地域防災

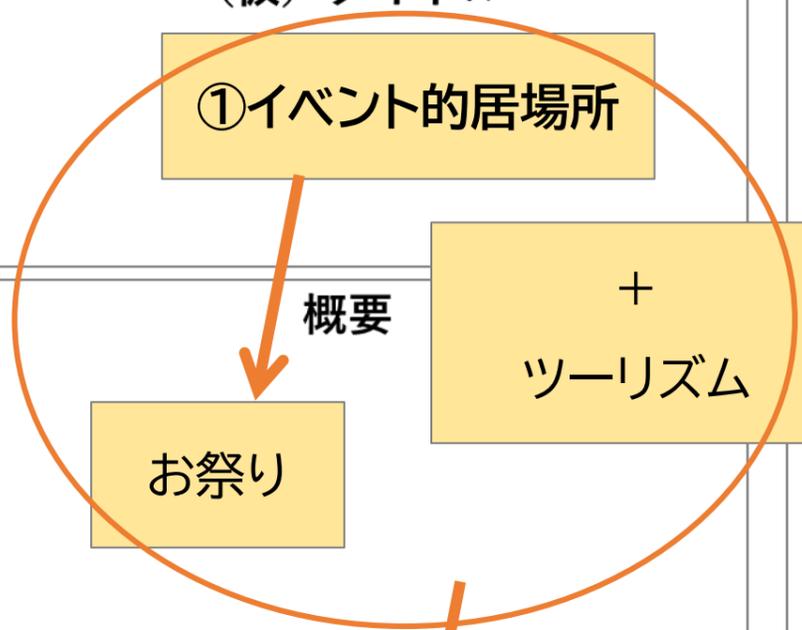
公共施設マネジメント

DX

グループ	1 番号	居場所 ☆:リーダー	+ツーリズム
------	---------	---------------	--------

検討を深めるアクション

アクション1	アクション2	アクション3
いちよう祭り (仮) タイトル	(仮) タイトル	(仮) タイトル
①イベント的居場所	②日常的居場所	
概要 お祭り	概要 既存の活動がある	概要
+ ツーリズム 魅力発掘・発信	集いつながらる	
自然塾 今取り組んでいる ことを活用	必要な検討、活動など	必要な検討、活動など
小さなことから	シンプルに、できること、いまできること	
	イベントごとに主役が 入れ替わる	



ワークシート ワークショップを考えよう

○日時・場所：7月 8日（土）午前中 由井市民センター 体育室 実質2時間（10時～12時）

9時集合
(8:50から
会場入場可)

6/1チラシを
推進会議メンバー
に配布

参加申し込み
6/20 締切

ねらい

のアピール。仲間づくりのきっかけづくり。
課題、将来ビジョン、取組候補についてひとり意見をもらう。

ワークショップの進め方

プログラム（案）	概要（案）	役割分担
①開会・あいさつ 説明：5分	○開会宣言 ○開催にあたっての注意事項など ○あいさつ	○司会（全体進行）： 荒井さん ○あいさつ：市から
②地域まちづくり推進の趣旨 説明：15分	○会の導入としての説明 ・2040ビジョンの説明 ・地域まちづくり推進の趣旨 ・推進計画の策定の趣旨 など ⇒プロジェクター＋スクリーン	○市
③推進計画の検討活動報告 説明：15分 エックス都市研究所 が行う	○検討経過（令和3年度からの活動） ○中間とりまとめ内容の説明 ⇒プロジェクター＋スクリーン ※質疑応答を含めて、ワークショップで対応する ようにします。	○説明者： 野牧さん
④ワークショップ ④-1 取組み方の説明 時間3分 ----- ④-2 話し合い 最大6テーブル（40名程度） 時間：50分 ※テーブル内での自己紹介含む 事前に分ける ← 属性に応じて テーブルを分ける ----- ④-3 シェア 時間：20分 1テーブル当たり3分程度 小中学生には 地域カルテの マップ	○全体で、話し合いの進め方を説明 ⇒プロジェクター＋スクリーン ※詳細は、各テーブルで適宜補足 ----- <テーブルを囲んだ話し合い> ○中間とりまとめを参照しながら、大きく次の テーマに区切って話し合い。 ・地域の魅力・課題 ・どんなまちになると良いか（ビジョン） ・そのための取組はどのようなものか（アクション プラン） ※中間まとめ（テーブル図）、付箋への意見の書 き込み ⇒空白のもの ※アクションプランごとにテーマを 分けて話し合うことも考えられます。 ----- ○各テーブルの話し合いの内容を紹介	○説明者：全体進行か、③の説明者 ----- ○ファシリテーター（各テーブル）： ⇒テーブル数は確定して いるためしっかり決める ----- ○板書係： ----- ○発表：各テーブルファシリテーター ※全体進行は司会
⑤情報交換 各自紹介：計10分	○参加者からの情報提供（簡単な所属組織の紹介 も考えられます）	○進行：司会
⑥閉会・あいさつ 説明：5分	○あいさつ（今後の簡単なスケジュールを含む） ○閉会宣言	○あいさつ：市から
その他 ○配布資料 ○参加者アンケート → 推進会議への参加 可否も聞く	○②、③の説明で使用する資料 ○話しきれなかったことを、答えてもらう	○事務局で準備、配布、回収

声かけ

対象（候補）	方法	役割分担
○小、中、高校生	○学校を通した呼びかけ → 小中学生は 市から学校へ ※生徒会役員 ○保護者を通した呼びかけ	保護者 荒井さん
○大学生 ネイティブ /大学のみ	○学校を通した呼びかけ ○SNSの活用	保護者
○地域の住民の方 大人、高齢者、外国人	○既存サークルへの呼びかけ ○スーパーなどの掲示板的掲示 ○町会を通した呼びかけ → 掲示板・回覧板	

チラシはエックス
都市研究所が作成

問い合わせ先
は八王子市